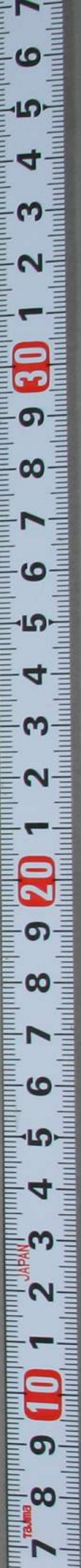




夫木和歌抄

卷之三

1765
22
4
A red seal impression is visible above the handwritten text on the label.



139

明八利4
1765
22

榊

77

丈本和歌抄巻第六

以下別々

雑部曰

巻4

作我為例之做

改頁

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 烟 | 收 | 蹄 | 系 | 林 | 杜 |
| 藪 | 田 | 系 | 石 | 富 | 園 |
| 細 | 收 | | | | |



4

建保三年八月東海寺合時不産

三行分トル



前中細を定家

玉葉春上 松の若さぬやういふのほたるをみるかみよひのうらやま

其由院入名三首新と歌又十首曰

りまつひのよのけしきよらむねはらけ

あはれ

信長歌

新六二 みよせいのよらむねのけしきよらむねはらけ

あはれ

信長歌

みよせいのよらむねのけしきよらむねはらけ

78

紙園詩百首

白雲若更無人傷

人いれ^皆るのそり^皆れあはし^皆た^皆のそ^皆のそ^皆

野と晴白き水

子田

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

野を知る^{紀伊}

うらみ^皆す

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

えぬえ年六月八日入るをぬたはぬ年一合

なるを

源經意の旨

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

雲一雲

山海入大木

よも人志す

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

柳中紙園詩百首

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

冬四十一中

才三のみ^確

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

正徳二年百首

海内公記 尾法

常中紙園詩百首

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

おき

山海入大木

日

あまのり^皆のそ^皆り^皆け^皆み^皆え^皆け^皆い^皆る^皆白^皆き^皆水^皆す^皆

山海入大木

水久保平太夫御文御呈す合為
傳興

いそいそ

はるけきとてのあまのついで

海防院うけ百首 階海法師

あまのついでとてのあまのついで

意地地 洞院接政

あまのついでとてのあまのついで

中納言

あまのついでとてのあまのついで

えん久三平七月内宿草奇合草の花

拾中納言師傷石

あまのついでとてのあまのついで

可賀月守

あまのついでとてのあまのついで

あまのついでとてのあまのついで

あまのついでとてのあまのついで

あまのついでとてのあまのついで

あまのついでとてのあまのついで

あまのついでとてのあまのついで

香集河内院... ^{柏木} ^{葉廣}

香集河内院...

香集河内院...

香集河内院... ^昔

香集河内院...

香集河内院...

香集河内院... ^末

香集河内院... ^御

香集河内院... ^酒

香集河内院...

香集河内院...

香集河内院... ^世

久安百首

信田門院安範

香集河内院... ^世

信田門院安範

信田門院安範

香集河内院... ^世

信田門院安範

香集河内院... ^世

信田門院安範

香集河内院... ^世

信田門院安範

信田門院安範

信田門院安範

信田門院安範

信田門院安範

都のひんとすん
あきつひのほられ
あきつひのほられ

家平そ眺らま
都の院入るふのみな

まつるまのあしとあつらん
まのあしとあつらん

遠保二年日東の合
流二花宮

ゆすまのあつらん
ゆすまのあつらん

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

あきつひのほられ
あきつひのほられ

歌ふ知

いふ人あはす

あふひくさめ ^{藤原} あめりしあめれあめれいこのふりか

海を宿治百首の

兼俊のお名

あふもさるの ^{お母} あふもさる ^{お母} あふもさる ^{お母} あふもさる ^{お母}

寛治十首并合部外書民の人の歌 ^御

あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

歌ふこと

いふ人あはす

^{平一} ^{吾妹子} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

寛勝四人 ^院 院 ^院 院 ^院 院 ^院

^宿 あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

日

いふ人あはす

あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

建保三年久末百首 ^西 西 ^西 西 ^西 西 ^西

あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

いふ人あはす

あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

貞應二年 ^{百首} 百首 ^御 御 ^御 御 ^御

いふ人あはす

あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ} あふらう ^{おれ}

寛治十首并合部外書 ^西 西 ^西 西 ^西 西 ^西

らうのそと^其母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

柿中歌徒百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

らうのそと^掃母ららむかきしつてい^昔のあつたこと

百首^の一は九条門大臣

百六 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも ちかみくらの白雲もあめ

とを傍田夫うら流きのた陰子 魯成雅治名

雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも ちかみくらの白雲もあめ

文意元年廿七首 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

遠七四年毎日一三一中 日

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

春日野朝あさのちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

延喜元年三月系極の息可奇合 日

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

西行上人

董たかすれりてふくくも ちかみくらの白雲もあめ

六条赤院あか合あ少あ 少あ

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

久安二首くわん

ちかみくらの白雲もあめ 雪のうららのぬき打なりすれりてふくくも

園中
このころの明徳
光徳御旨

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

御旨

いさめ

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

西園寺入道前左大臣家持首

後二世家隆伯

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

上皇年三徳記
方四屋凡玉野上京

後如右

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

清和未初村
因もあつた
は九東門右官

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

永久三年
大御文御旨
合女御
御旨

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

建保三年
大御文御旨

明徳院御旨

あつたの人のいさめをわらうとてかたじけなく

日

西之伝説

たつみののけしき... ついで

日

西之伝説

たつみののけしき... ついで

西之伝説

天

西之伝説

たつみののけしき... ついで

百首

ついで

西之伝説

湊河

たつみののけしき... ついで

久安百首

ついで

西之伝説

たつみののけしき... ついで

百首

ついで

西之伝説

たつみののけしき... ついで

寛治二年百首

西之伝説

たつみののけしき... ついで

西之伝説

西之伝説

たつみののけしき... ついで

たつみののけしき... ついで

たつみののけしき... ついで

たつみののけしき... ついで

かゝるいふこと

野原の草花

後拾遺集

武蔵野のあけぼの ~~あけぼの~~ 草花

遠保三年の裏の草花

明徳院の草花

春の草花のあけぼの

久要百首

第六卷の草花

神宮のあけぼの

みず首の草花

おん門院の草花

春の草花のあけぼの

春の草花のあけぼの

春の草花のあけぼの

新野

春の草花

春の草花のあけぼの

春の草花のあけぼの

春の草花のあけぼの

遠保三年の草花

假庵の草花

春の草花のあけぼの

春の草花のあけぼの

秋中一申席

後言後改

わいのちねをうらむ^寒ふりて^妻いぬ^のいぬ^のいぬ^の

町首平様乃

後言後改

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

町首平様乃

田

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

先事院入及二お執事殿又十その御後月

西之位知事乃

続古旅

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

法下官後

石向

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

後言中

兼徳内頭

梅系

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

二百五十四年中

は九条内大臣

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

額田

五

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

文永七年毎日三申 民の令の御

いぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^のいぬ^の

いぬ^のいぬ^の

正和二年洛中合葬中書持信公之墓

わが山^にすまふ^{柵引}のこころりわが山^のうら^まい

御心^若 若^前

うらま^と

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

大正元年六月九日^{大和} 行^日 御心^若 若^前

わが山^にすまふ^{柵引}のこころりわが山^のうら^まい

御心^若 若^前

うらま^と

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

大正元年十二月^夜 行^日 御心^若 若^前

御心^若 若^前

うらま^と

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

源仲業

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

あまのまを^{あまの}うらまの^{うらま}の^{あまの}まを^{あまの}の^{あまの}まを^{あまの}

源仲業

おもしろいものうらやましいものなまのしるし百鳥

音そそり しらべの 拉得子と名

何うなるのさあ お梅 くらり おの くらり おの くらり

正徳二年百首 正三後香中流台

巖折 い くり おの くり おの くり おの くり おの くり

可音百首 ぼも押院と名

わらわらうらやましいのほく おの くり おの くり おの くり

お茶集 くらりの 東お 相模

くらりの 氷室 氷 おの くり おの くり おの くり

梅川院と何百首 くらりの 百鳥 仲実お茶

おもしろいものうらやましいものなまのしるし 百濟野の 姫百合

冬寄中 おの くり おの くり おの くり 乃園法師

威能 有恵

くらりの おの くり おの くり おの くり おの くり おの くり

おもしろい おの くり おの くり おの くり 赤人

くらりの おの くり おの くり おの くり おの くり おの くり

康徳二年八月内裏お裁合右大御所何台

くらりの おの くり おの くり おの くり おの くり おの くり

おもしろいもの おの くり おの くり おの くり 中務公のみと種会

おもしろいもの おの くり おの くり おの くり おの くり おの くり

清水寺寄合 有京親威

おはなすからわいのひり廣野のなむけりしよまはす内そあたらぬ

御本知懐半やまのの
おはなす

六五山城の
やまのの
酒
飲

西中まの花まの
後ねのた

おはなすのよる真徳野のたつてころれののつ
おはなす

永久四年五月に物々家守合なまの真
まの真

まのまのの真野のたつてころれののつ
おはなす

長和三年二月常盤又書守合なまの真
まの真

白土書又書守合なまの真

なすれいののたつてころれののつ
おはなす

永百書守合なまの真
まの真

おはなすのよる小盆のたつてころれののつ
おはなす

百書守合なまの真
まの真

おはなすのよる朝のたつてころれののつ
おはなす

百書守合なまの真
まの真

おはなすのよる浅茅のたつてころれののつ
おはなす

文永二年白河又書守合なまの真
まの真

新續古春下

おはなすのよる櫻のたつてころれののつ
おはなす

長瀬院日記

威徳
有徳

歌ふ知 ふまりの
国未始

^万あふりのの野木よりかりぬるおののしきもてん 悲
あつた 信のたのふのさし ^原を志せしむら 祝
^時 日記

^藤生野 家集 後二信の歌 一

あつた ^藤 生野 の ^地 紀伊 の ^中 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内

と ^川 紀伊 の ^紀 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内

^{續拾冬} 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内 紀伊 河内

建長五年毎日 中 成 内 成 御

月 ^行 家集 野 尾花 佐 清見 月

月 ^行 家集 野 尾花 佐 清見 月 有安 慈臨

指信正と判

あつた 白若

長 玉三

あつた 大郡の朝 玉三 玉三 大郡の朝 玉三

久 大郡の朝 安 大郡の朝 百 大郡の朝 首 大郡の朝

^時 大郡の朝 大郡の朝 大郡の朝 大郡の朝 大郡の朝 大郡の朝 大郡の朝

玉三 大郡の朝

^{五二} ぎんやうのあはれはひろひのきつひに
^{五三} たけのこはあはれはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに

建保三年八月廿二日
 佐二信忠三合
 佐興

^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに
^五 かのうのうらやうはひろひのきつひに
^{五三} あまのうらやうはひろひのきつひに

佐二信忠三合
 佐興

あいらのいぬいふりよけ 末

善約

は徳大寺の善言

あいらの 野 識 村 馬 の け

天徳院の御書

あいらの 村 の け

天徳三年或は天徳二年

なる由記

あいらの 結 散

天徳三年四月甲子

仲実の信

あいらの 浅 草 三 日 今 今 今

徳大寺の御書

あいらの 浅 草 三 日 今 今 今

天徳十首寺合部

信託の信

あいらの 浅 草 三 日 今 今 今

久安の御書

あいらの 大 野 の け 移

天徳の御書

あいらの 大 野 の け 移

遠保三年丙午辰辰百首よみ家々心々

あまの
たねの陸奥

家々心々

あさちうらわのじよもあまのののちたに結

のちたりの

貞徳三年乙酉百首に成るる由

らこころあまのしあとのあまのしあまのしあまのしあ

乙酉月乙酉中野月 後鳥羽院の歌

あまのしあまのしあまのしあまのしあまのしあ

貞徳三年乙酉百首 前鳥羽院の歌

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

貞徳三年乙酉 後鳥羽院の歌

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

あまのしあ

あまのしあ

あまのしあ

あまのしあ

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

貞徳三年乙酉百首 後鳥羽院の歌

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

あまのしあ

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

貞徳三年乙酉百首 後鳥羽院の歌

あまのしあまのしあまのしあまのしあ

遠保三年乙酉百首 後鳥羽院の歌

くねるまらね **いす** 廣沢

高田 高田

殿 殿

第六 **ね**

のむらたのむらた

い

上野 上野

のむらた

万十

上野

四集

高田院

Handwritten cursive text

何事の何事 何事

平社 **學**

松

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

Handwritten cursive text

万五

天 **文** **天**

茶 **萱** **竹**

有威徳

之意 年一社百

民のゆゑ

Handwritten cursive text

家集

西行

Handwritten cursive text

ゆゑの差

鴨

鹿の諸

Handwritten cursive text

遠長公平百文

Handwritten cursive text

移り二年
ワケ

けり判名老優お長 云は妙聖母の細行生く
西のうらまの三尊うらまの事と聞おれり
らん天 かんよおのへの所さのたそふれて
らんふれらんふれらんふれらんふれらん
守るは獄後服下ハ揺搖也云々

又治二年 又治二年 又治二年

祇園やまのこころはわさびのこころはわさび

家集 家集 家集

さらひす さらひす さらひす

好忠 好忠 好忠

ももはちやまのこころはわさび

四葉集 四葉集 四葉集

いづるこころはわさびのこころはわさび

えんえん年十月門長 えんえん年十月門長

あまのこころはわさび

ももはちやまのこころはわさび

又治二年 又治二年

えんえん年十月門長

あまのこころはわさび

あまのこころはわさび

あまのこころはわさび

り云六
うらやまのりういけりまはし **東** のまゝに **東** あり

遠き又平毎日百首中尺阿あふ

山あふり神へかじ風くるありのうらやまのあけの

遠き四年百首 匠二後歌燈台

朝 中いり **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

き **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

朝 ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

五六 **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

長年 中納言あはる

六六
七〇
四九

鳥野 **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

宮治七年都方口院寺合書印む **朝** ともく

八条入名 **朝** ともく

朝 ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

源光徳 **朝** ともく

朝 ともく **朝** ともく **朝** ともく **朝** ともく

おぬき **朝** ともく

あまのうらやまのりういけりまはし **朝** ともく

野後月 **朝** ともく

101

白紙年
願ひしき事のしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎの
いしん ちんぎ

萬十
きんぎのしるしをいふはしむる

弟安二年閏十一月事のしるし合連日記

信捕船長

くまのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

武士
おのしるしをいふはしむる

新中 國 一
いしん ちんぎ

五七かいカ
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

新編 志 ちんぎ
いしん ちんぎ

萬十
おのしるしをいふはしむる

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら
うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

6 承久三年六月廿五日甲午合世師也

うららかにけりよ

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

同懐信福

中納言家持石

平九

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

千五百番弁合

事

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

鈴舟

上野

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

遊業末

後頼朝

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

如義社百二口弁

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

お中納言通有台

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

承久三年十一月廿五日甲午合世

承久のあとの 後頼朝の意

祐子内親王家記序

うららかにけりよ花房も花のよ女のわらわら

赤坂町南町中 住二俣松野台

この町の中はわが町に似たり
新島院入る二島親王赤坂町中

野口文左衛門

中丸山ノドの山ノドの山ノドの山ノドの山ノド
4 原 } 三行カトル

弘治元年百一十 松丸親右衛門

松丸の山ノドの山ノドの山ノドの山ノドの山ノド

遠山又一年毎日一甲 辰の山ノド

山口の山ノドの山ノドの山ノドの山ノドの山ノド

新島院入る二島親王赤坂町中

源氏光

赤坂町南町中 西行の人

林の山ノドの山ノドの山ノドの山ノドの山ノド
遠山又一年毎日一甲 辰の山ノド

赤坂町南町中 赤坂親右衛門

赤坂の山ノドの山ノドの山ノドの山ノドの山ノド

赤坂町南町中 赤坂親右衛門

西舞大嘗年々々

蕙仲白

まじりつるものつらつらひつるものねるおひけきしり

三日平首中のちのちのち好忠

あたらゆづるものつらつらひつるものねるおひけきしり

秋中のちのち善月院按察家

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

源順

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

武彦

好忠

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

後二任行忠白

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

好忠あつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

若菜

好忠

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

續後拾春上

好忠

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

名簿田舎王院名田信の子に久米を返したる

あつゝあつやめるんつあひつあひつあひつあひつあ

義安二年法橋の寺合掌の花

善法師

藤生野の原

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

けり判を信備部へ云右寺僧のふりしは

りりてあはれとあはれとあはれとあはれと

山書衣濯寺合 西行上人

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

文喜元年七月百首 民名のお

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あはれおろろのまはしあはれと海をくぐり

あつてよ ^依 洞 ^原 のうへにゆく ^{こと} のうへにゆく

永久四年 百三 ^{そのつ} 信後 ちき院 ちき

みら ^生 成 ^生 日 ^生 たり ^生 くれ ^生 ぬ ^生 れ ^生 の ^生 り ^生 づ ^生 ち ^生 づ ^生 け

家 ^生 女 ^生 御 ^生 成 ^生 の ^生 合 ^生 衆 ^生 の ^生 忠 ^生 節 ^生 貞

と ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

と ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

万十三 ^生 の ^生 う ^生 へ ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

え ^生 の ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

信二 信成 信隆

い ^生 の ^生 う ^生 へ ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

ふ ^生 の ^生 う ^生 へ ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

と ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

ち ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

お ^生 の ^生 う ^生 へ ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

と ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

と ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

達 ^生 ち ^生 ち ^生 たり ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け ^生 ぬ ^生 べ ^生 け

源仲業

いさゝかおのひもい

わたりひもい

はきり判光後兼朝

えねえ年ぬ言合内由

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

わいしるふれ

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Handwritten text in cursive script, possibly a list or entries, with some red markings.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

Small handwritten notes or corrections in the left margin.

都下
皇女臨

萬三丁
新十宮二

みづのついでのもろもろは
後代
後代
後代

水久田平百三
後代
後代

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

あまのついでのもろもろは
日

萬七 山崎の御原 松原

松原

夜三内出石

新三又 急しぬわりの玉藻計

松原

二内出石

あつたりのしりしりの松原

中務の松原

松原

康平四年三月松原

松原

松原

松原

甲斐

也

松原

松原

松原

松原

松原

松原

松原

松原

松原

松原

松原

ゆきつきのまげ月しくくまれのたりのしんふの松糸

遠保三年名百々あいつのあつた 信心行信具 念

せらりすのあつらひのきくゆめこのころいよきしあつた

日 在系属さん

わくはりの落むしあつらひのあつたはり

空揚屋天流名百々 具親御信

^深くそめこのまゝなみらあつたのあつたはりつぼみ

百々あつた 八景院あつた 念

冬あつたのあつたはりいよきしあつたのあつたはりあつた

遠保三年名百々冬あつた 念あつた

正三位忠定公

^{うら}内あつたのあつたはりあつたいよきしあつたのあつたはりあつた

日 西三位知家公

あつたのあつたはりいよきしあつたのあつたはりあつた

口妙社市合持あつた 源親房あつた

あつたのあつたはりいよきしあつたのあつたはりあつた

船久四年名百々あつた 仲言あつた 念あつた

あつたのあつたはりいよきしあつたのあつたはりあつた

あつたのあつたはりいよきしあつたのあつたはりあつた

秋保あつた

りうしあぢの原ハ伏見駒のふみとるちり

天延三年四月四日合あしこのり

大和

子よきあしこのり駒のふみとるちり

寛治二年百々

後九条門六日

あしこのり駒のふみとるちり

貞治三年四月四日合百々思花

民ア々内政

あしこのり駒のふみとるちり

康和二年四月四日合百々思花

源為昌

あしこのり駒のふみとるちり

承久四年百々原

日

あしこのり駒のふみとるちり

寛治二年百々

源後平朝臣

あしこのり駒のふみとるちり

千五百番

西三位重光

あしこのり駒のふみとるちり

聖徳太子

源二位行光

あしこのり駒のふみとるちり

寛治二年百々あまのついで 弟大納言由氏

いふもあつたちうしふを祿るひのあまのついで

次田原泉より作命あまのついで 大納言孫人

ゆりりたるあまのついであまのついで 時

建長八年百々あ合あまのついで 経家氏

いれのまもついでついでのなまのついであまのついで 葉末は

赤兼末家守中あまのついで 弟中納言直房

くまみさついでのあまのついであまのついで 資

仁安二年八月経直のあまのついで

資隆あつ

有能
有恵

初里 ちのついであまのついで 資隆

京 よし人あつす

大五丁 ちのついであまのついで 資隆

門妙社寺合南意 弟祇伯孫伴々

うやまのついであまのついで 藤袴

弟あつあまのついで 可

見のついであまのついで 可

二君原新えよついでこの河原守一

合村

西瓶 ちのついであまのついで 玉梓

わよる色のしんげん

建保二年八月

大細忠信

昔

建久二年六月

中納言

くろくも

新橋

新橋

くろくも

かりし

歌

中務集

かこ

文意

氏

この

西

院

いろ

三

好

わ

福

院

あつたつて日^敷なりよめをわんじのあつたつ

冬^中

厚^衣

かゝる^人のあつたつた^えぬ^あめ^あの^あつたつ

四^葉集^あと^あ源^あ 陸^奥 辰^一集^八

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

歌^子集

よ^し人^志

人^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あ

家^集未^あ冬^あ中^あ 揚^あ 又^あか^ああ^あ

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

家^集未^あ冬^あ中^あ

源^伸心

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

遠^仁元^あ年^あと^ああ^あと^ああ^あと^ああ^あと^ああ^あ

く^あれ^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あの^ああ^あ

三^集未^あ冬^あ中^あ

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

三^集未^あ冬^あ中^あ

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

遠^仁元^あ年^あと^ああ^あと^ああ^あと^ああ^あと^ああ^あ

あつたつてつあもあつたつてつあもあつたつてつあ

三^集未^あ冬^あ中^あ

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



山科 山科郡 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町 山科町

書状

正三後記

延治六

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

何方

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

陸奥

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

難波

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

続後拾秋上

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

日

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

建武六年百三十九合

後二位行ある

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

おのりつらつらのおもひはるるまゝありぬあつちのさかき

21

六三丁  
万十七

ついでこのより次國まゝへ後形あり臣

寫いさまらうつけてうのものい海えよいさらんじ

三條い山ゆ 衣き山ゆ

其ついでこのより次國まゝへ後形あり臣

左衛門尉院名西田藤子泉川

後二位藤隆隆也

あつこのゆふよまじりて川いさらんじ

如新法師

あつこのゆふよまじりて川いさらんじ

後之頭藤隆隆也

すあつこのゆふよまじりて川いさらんじ

兼中い山ゆ 指傳い云お

其ついでこのより次國まゝへ後形あり臣

子い山ゆ 如新い法師

あつこのゆふよまじりて川いさらんじ

如新い法師

後二位藤隆隆也

續後拾遺あつこのゆふよまじりて川いさらんじ

遠保三年名西田藤子泉川

あつこのゆふよまじりて川いさらんじ

常い山ゆ

Edo no ...  
1901

中務の...と...  
御

しつら...  
御

御首...  
御

いそ...  
御

寛治二年古...  
御

おま...  
御

千五百...  
御

おま...  
御

おま...  
御

うら...  
御

兼保...  
御

おま...  
御

子...  
御

か...  
御

永久四年...  
御

若菜...  
御

西...  
御

おま...  
御

223



建永二年百三十九合 かきつりし思 産屋つ所お幸お

かきつりし思の **中** 産屋つ所お幸お

中務の親と家々合 かきつりし思 持傍にるお

とらふゆへにさじて **中** 産屋つ所お幸お

とらふゆへにさじて **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

あちのゆへに **中** 産屋つ所お幸お

建仁元年の事云々  
住持松政

あさみどり松よきまのころあまよりたきつやあそん

西暦二年百三たれ三位あま

まきつてたれそのより杜たきつやあそん

百三四年たれ住持松政

まきつてたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政

あそんよりたれそのより杜たきつやあそん

住持松政



文治六年二一五社百々

白土宮文太夫御殿々

**奥鳥**

西治二年百々

お大御と階層々

お集

正二位お集々

神のまじりあそびのりあそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

**日** うさこのり

後ねあふ注

いふせんうさこのりあそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

寛治元年昔入百々井治々

西園入々百々

えいせいりくはあそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

お集

番ねね々々

のりあそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

建長八年百々あ合注 左中お

あそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

あそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

常民の御殿々

あそびあけいこあそびあけいこあそびあけいこ

承安二年百々あ合部公判々

後ね々々 及因は作

227

七〇五  
七二〇

みろりりらわらうら <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

花下名海しきふん 後形知店

あつ <sup>4</sup> ちのあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

あま <sup>未</sup> ねあいのりり 元後形知店

紅 <sup>世本</sup> ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ふ <sup>二下</sup> ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

万七 <sup>成</sup> ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

寛治二年百三毒知系ふら位知家

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

ねあいのりり <sup>社</sup> <sup>龍</sup> ねあいのりりよまらん

28

千五百歳并合

醍醐入る古政大臣

くまりのわ<sup>社</sup>のく<sup>社</sup>は<sup>社</sup>のや<sup>社</sup>を<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>じ<sup>社</sup>の<sup>社</sup>

承久元年の裏方合

醍醐院止製

わけ<sup>社</sup>は<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>よ<sup>社</sup>く<sup>社</sup>は<sup>社</sup>う<sup>社</sup>け<sup>社</sup>こ<sup>社</sup>の<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>の<sup>社</sup>う<sup>社</sup>り<sup>社</sup>く<sup>社</sup>

四葉三枝并合

後醍醐院改

下<sup>社</sup>に<sup>社</sup>落<sup>社</sup>と<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>は<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>い<sup>社</sup>の<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>の<sup>社</sup>う<sup>社</sup>り<sup>社</sup>く<sup>社</sup>

歌多志部公方中

後醍醐院

う<sup>社</sup>け<sup>社</sup>の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>は<sup>社</sup>部<sup>社</sup>の<sup>社</sup>月<sup>社</sup>の<sup>社</sup>て<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>

康平四年三月廿五日親王殿及御方并合在社

号は朱雀院二天

少納言

の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>は<sup>社</sup>部<sup>社</sup>の<sup>社</sup>月<sup>社</sup>の<sup>社</sup>て<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>

六世

後醍醐院

う<sup>社</sup>け<sup>社</sup>の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>は<sup>社</sup>部<sup>社</sup>の<sup>社</sup>月<sup>社</sup>の<sup>社</sup>て<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>

菩提二百年社記

と<sup>社</sup>の<sup>社</sup>り<sup>社</sup>に<sup>社</sup>は<sup>社</sup>部<sup>社</sup>の<sup>社</sup>月<sup>社</sup>の<sup>社</sup>て<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>

辰内年よ社にの社の社よ

醍醐院

人の世のり<sup>社</sup>に<sup>社</sup>は<sup>社</sup>部<sup>社</sup>の<sup>社</sup>月<sup>社</sup>の<sup>社</sup>て<sup>社</sup>か<sup>社</sup>う<sup>社</sup>く<sup>社</sup>ひ<sup>社</sup>

承安元年八月全書は下御方并合部云

寛文十三年







春日 皇の社  
春の日の社  
春の日の社

日 春の日の社  
皇の社

菜門 皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

皇の社  
皇の社

あしつらうき <sup>紅</sup>あしつらうき <sup>時</sup>あしつらうき

山葉 <sup>あつこのり</sup> 核律或國あつこのり

核律或國あつこのり

夕立のあつこのり <sup>あつこのり</sup> のあつこのり <sup>あつこのり</sup> けり <sup>あつこのり</sup> けり <sup>あつこのり</sup> けり

新羅社 <sup>あつこのり</sup> 新羅社 <sup>あつこのり</sup> 新羅社 <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

新羅社 <sup>あつこのり</sup> 新羅社 <sup>あつこのり</sup> 新羅社 <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

4 牧 三行方ト

塔院 <sup>あつこのり</sup> 塔院 <sup>あつこのり</sup> 塔院 <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

建保三年 <sup>あつこのり</sup> 建保三年 <sup>あつこのり</sup> 建保三年 <sup>あつこのり</sup>

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

日 俊成女

あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup> あつこのり <sup>あつこのり</sup>

日 正二位

あつらひのしりぞきぬらむとてあつらひの  
うらむ

日 後に後行結石

くさゆりそぢらぢらしくんらぬらむのきまらぬらむの

御院持政家百々二月毎 隆祐知

五月丙 ぬらむのきまらぬらむのきまらぬらむの

千五百百百百一合百百一あつらひの

皇太子を天皇後継者

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

文治六年六月入内院に御座り

正二位左大臣

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひの

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

六丁 京都 家都 牧 荒 懐 春 今 跡

馬

大ニ 牧 荒 懐 春 今 跡

松海院

松伸部

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

大初之節

新々雑下 牛田

百

真之集

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

達者

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

又

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

昔

わらわらぬ海らうらうらぬわらわらぬわらわらぬわらわらぬ

昔忽百首

在宗内記

田あり物に田を<sup>て</sup>ら<sup>れ</sup>ん<sup>苗代</sup>のありし身とら<sup>り</sup>て<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

隆河院の河百の田<sup>の</sup>後大御<sup>の</sup>とら<sup>り</sup>ん

あゆ<sup>ひ</sup>ら<sup>り</sup>の<sup>十</sup>代<sup>の</sup>か<sup>り</sup>の<sup>門</sup>田<sup>植</sup>か<sup>り</sup>り<sup>あ</sup>さ<sup>い</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

正治二年<sup>の</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

正徳元年<sup>の</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

龜山院の田

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

新<sup>の</sup>ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

旧<sup>の</sup>ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

ゆ<sup>や</sup>り<sup>を</sup>り<sup>ん</sup>と<sup>ら</sup>り<sup>ん</sup>の<sup>ゆ</sup>や<sup>り</sup>を<sup>り</sup>ん<sup>た</sup>

寛文二年迄極海百三  
野分内家

~~~~~  
~~~~~

河津

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

河津

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

歌集の御下申 持保の公物

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

歌集の御下申 歌仲の公物

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

中務の御下申

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

藤原の御下申

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

持保の公物

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

多々中 山田

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

催馬樂 歌集

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

天治元年二月五日

隆之丞

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

楊弁

あはれおのゝみちのまはらむてのくみかみさき

建永元年毎日

民名

朝^{あす} 西^{にし} 方^{はち}
 三^{さん} 字^じ の^の 下^{した}
 四^し 字^じ の^の 下^{した}
 五^ご 字^じ の^の 下^{した}

朝^{あす} 西^{にし} 方^{はち}
 三^{さん} 字^じ の^の 下^{した}
 四^し 字^じ の^の 下^{した}
 五^ご 字^じ の^の 下^{した}

几^い 雅^や 夏^げ
 百^{ひゃく} 年^{ねん}
 一^{いち} 年^{ねん}
 二^に 年^{ねん}
 三^{さん} 年^{ねん}
 四^し 年^{ねん}
 五^ご 年^{ねん}

有威徳

一^{いち} 年^{ねん}
 二^に 年^{ねん}
 三^{さん} 年^{ねん}
 四^し 年^{ねん}
 五^ご 年^{ねん}
 六^{ろく} 年^{ねん}
 七^{しち} 年^{ねん}
 八^{はち} 年^{ねん}
 九^{きゅう} 年^{ねん}
 十^{じゅう} 年^{ねん}

文^{ぶん} 意^い 三^{さん} 年^{ねん}
 四^し 年^{ねん}
 五^ご 年^{ねん}
 六^{ろく} 年^{ねん}
 七^{しち} 年^{ねん}
 八^{はち} 年^{ねん}
 九^{きゅう} 年^{ねん}
 十^{じゅう} 年^{ねん}

玉葉雅三

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

四葉山家

後九葉門太長

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

あられのうらやま

後九葉門太長

新六一

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

後九葉門太長

古枝

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

後九葉門太長

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

あられのうらやま

後九葉門太長

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

三行分ル

久保野年六月あられのうらやま

後九葉門太長

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

久保野年

後九葉門太長

あられのうらやまのいづれかたのさかしのうらやま

久保野年

後九葉門太長

有蓋

石⁴ 三行分¹ 百首¹ 院¹

河^新 保^新 大^宗

中^新 氏^新

岩^新 光^新

信^新

信^新

信^新

有威 惠能

天延三年一月... 院入... 院入... 院入...

福性法師

おらう... 院入... 院入...

長弁中

長九郎内大臣

る... 院入... 院入...

速原百三

白土右大臣

石... 院入... 院入...

文治三年

中納言

院入... 院入... 院入...

院入

院入

院入... 院入... 院入...

院入

院入

院入... 院入... 院入...

院入

院入

院入... 院入... 院入...

院入

院入

院入... 院入... 院入...

院入

院入

思... (Senshi) ... (Senshi)

永之四子... 仲之助

... (Senshi) ... (Senshi)

有志忠房

日

... (Senshi) ... (Senshi)

保道四年... (Senshi)

大藏大臣 (宗一)

... (Senshi) ... (Senshi)

建長八年... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

保秋

建長八年... (Senshi)

... (Senshi)

新勅... (Senshi) ... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

... (Senshi) ... (Senshi)

よ奥の田舎とて名用の清^殿なりり二三所

らり東のちり中^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

らり^殿のちり^殿のちり^殿のちり^殿なり

部^知

六十一 七十三

少^五らり^水のちり^水のちり^水のちり^水なり

名^水のちり^水のちり^水のちり^水なり

らり^水のちり^水のちり^水のちり^水なり

部^知

中^水のちり^水のちり^水のちり^水なり

細^水

部^知

万^十部^知のちり^水のちり^水のちり^水なり

部^知

部^知

